

陳情第24号	平成24年6月6日受理
付託委員会	産業都市常任委員会
件名	「新川周辺地区都市再生整備計画」の説明会開催を求める件
陳情要旨	<p>私たちは、去る2011年3月議会において「新川周辺地区都市再生整備計画」の中には税金の無駄遣いではないかと疑問視せざるを得ないものがある。こうした疑問を除き、市民の総意に沿った計画実現のために、図書館、市民ギャラリー、総合グラウンド、ふれあいの農業の郷など項目別に、市民が本当に必要と考えているかどうかを明らかにしてほしい」旨を訴え、同計画の市民への「説明会の開催」を求めました。しかし、議会は「計画は決まったこと」を主な理由として不採択としました。しかし、計画の大部分の財源を担うのは言うまでもなく市民であり、市民の同意なくして「決まったこと」とは言えないはずです。</p> <p>去る4月22日にTBSテレビ「噂の！東京マガジン」において「新川計画」に関する取材が放映されました。計画に反対する市民の意見、市側の意見の双方に取材が行われ、放送倫理が遵守された内容でした。そして、私たちが可能な限りリサーチした結果、「番組を見て初めて計画の存在を知った」という声が圧倒的に多かったのです。これは、いかに市側が市民に対する情報公開をサボタージュしてきたかを如実にあらわしています。民意なくして「決まったこと」と強弁するのは「議会の傲慢」としか言いようがありません。</p> <p>当初予算が10億5,000万円だった「総合グラウンド」が3月議会で、いつの間にか市民への説明もなく17億円に補正予算が組まれました。詳細については、市役所の情報公開室に出向いて調べなくてはわからないことです。しかし、市民全員が公開室に出向くのは不可能です。そうではなくて、「だれにでもわかる情報公開」と「説明機会」が必要です、そのような努力を議会や行政は意図的に回避しているとしか思えません。</p> <p>ところで去る5月31日、八千代市ホームページにおいて「新川周辺地区都市再生整備計画について」なる記事が掲載されました。あのような「お役人の作文」で「市民に説明した」とでも言いたいのでしょうか。こそくなアライブづくりはやめていただきたい。市側が市民に直接、説明して、そして、市側は市民の声を直接聞いた上で計画に対する見解を示すべきです。それが「説明責</p>

任を果たす」ということを意味するのです。市側は全く説明責任を果たそうと  
していません。

このままでは、「ふれあいの農業の郷」や「図書館・市民ギャラリー」の予算  
も市民に説明もなく、一方的に増額されるのではないかと危惧しています。

現段階でも総予算は実質80億円を超えており、計画発表当初と大きく状況  
が変わっているのですから、改めて計画の事業別内容と、経費・財源・財政に  
ついて、そして、施設完成後5～6年もたてば21億円の交付金が相殺されて  
しまうであろう維持・管理費の問題もあわせて市民に説明会を早急に開催し、  
かつ、質疑応答・市民意見を集約・把握した上で情報公開を全市民に行い、計  
画への信を問うべきです。そのための道筋をつくるためにも下記のとおり陳情  
します。

#### 記

1. 「新川計画」の事業別内容について、経費や財源、財政を含めて、市民への  
説明会を早急に開催すること。
2. 市民に「新川計画」の内容と現状の周知徹底を図った上で、説明会を地区  
ごとに行い、全市民を対象に呼びかけて開催すること。また、一方的な説明  
ではなく、質疑応答を行い、市民側意見を聴取し、市側はそれに対しては最  
大限に尊重すること。
3. 市側は、意見集約を行い、あらゆる情報媒体を駆使して、その結果を市民  
に情報公開して周知徹底に努めること。